

(外国語活動・外国語)

一人一人が輝き、仲間とともに、未来を生きぬく子どもの育成

—外国語活動・外国語科の学習指導の工夫を通してコミュニケーション能力の素地を育む—

大阪市内立九条南小学校

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標「『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3要素をバランスよく育むことで『生き抜く力』を身につける教育活動を推進する。」を学校経営の重点として掲げ、全教職員で日々の教育活動を積極的に進めている。

令和5年度より、校内での研究を外国語活動・外国語科とし、研究主題を「一人一人が輝き、仲間とともに、未来を生きぬく子どもの育成～外国語活動・外国語科の学習指導の工夫を通してコミュニケーション能力の素地を育む～」として、授業の流れや活動の際にどのような教材を使っていくのか等の基礎基本を考え、指導者一人一人の指導力の向上をめざし、外国語活動・外国語科の実践研究を中心に研究を進めてきた。

## 2. 研究の趣旨

昨年度の研究を通して、全教職員で研修・研究を深めることにより、外国語活動・外国語科の基本的な学習活動の組み立てについて共通理解することができ、学年ごとの系統立てた積み上げを意識しながら、各学年の児童の実態に応じて、児童が主体的にコミュニケーションを図る楽しさを実感できる授業づくりの工夫ができた。また、普段のあいさつで英語を使ったり、掲示物に興味をもって英語をつぶやいたりする児童の姿が見られ、外国語に対する興味・関心が高まりつつある。しかし、児童が理解しやすいクラスルームイングリッシュの幅を広げていく必要性や中間指導のあり方、児童が自ら学び取ったり何かについてじっくり考えたりする場面、児童同士での学びあいの場の工夫などの課題があった。

そこで、今年度は、低学年は短時間学習（歌・ゲーム）、中学年は外国語活動（聞く・話す活動）、高学年は外国語（読む・書く活動）を重点的に、授業の流れや活動の際にどのような教材を使っていくのか等、授業づくりの基礎基本を大切にしながら、指導者一人一人の指導力の向上をめざし、外国語活動・外国語科の実践研究を中心に研究を進めることとした。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識及び技能の習得を図る指導法の工夫

- ・ 言語活動で活用する知識・技能の習得を図るために、短時間学習を中心に、チャンツや歌、絵本、ゲーム活動などに繰り返し取り組み、慣れ親しんだ表現やこれまで身につけた知識・技能を用いて、自分の気持ちや考えを伝え合えるように、練習だけで終わることのないような授業づくりに取り組む。

視点②主体的に学習に取り組む態度を育成するため、英語を用い主体的にコミュニケーションを図る楽しさや大切さを感じる指導法、授業づくりの工夫

- ・ 児童が意欲的に学習活動に参加することができるように、相手意識や目標、コミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定、英語を使う必然性等をしっかりと児童と確認し、めあてや活動内容を工夫する。

#### 視点③指導と評価の一体化を図り、児童一人一人が達成感をもてるように次への学びに生かす評価の在り方について

- ・ 指導者だけではなく児童同士でもポジティブな声掛け（ほめ言葉）を活用したり、ルーブリックや活動のポイント、中間指導を効果的に活用したりすることで、児童自身ができるようになったことを認識したり、次におけるモチベーションを高めたりすることができるようになる。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 各学年の児童の実態に応じて、児童が意欲的に学習活動に参加することができるようなめあてや活動を工夫することで、児童が主体的にコミュニケーションを図る楽しさを実感できる授業づくりができた。また、指導者から児童への一方通行の授業ではなく、児童と指導者が一緒に授業を作っていくことができた。
- English Time 等で英語表現に慣れ親しむことができていることで、英語で表現することへの意欲が高まり、外国語活動や外国語科の時間以外でも意欲的に英語を使って話したり、毎週木曜日の給食時に流れる英語の歌を自然に口ずさむ姿が見られたりするようになった。
- 高学年の「書く」活動において、単語の並びを意識できるように板書を工夫したり、板書とワークシートを同じ配置にしたり、児童が見ながら正しく書き写せるように、掲示用絵カードやワークシートに4線を入れたりすることで、書くことへの抵抗を減らした。その結果、児童のわかりやすさに繋げることができた。
- ルーブリックや活動のポイント、中間評価を上手く活用することによって、児童がそれぞれの目標をもつことができ、自己調整をしながら意欲的に活動に取り組むことができた。
- 2年間の研究を通して、外国語活動・外国語科の基本的な学習活動の組み立てや進め方について全教職員で共通理解を進めていくことで、指導者も手ごたえを感じることができ、自信をもって指導することができるようになった。

### (2) 今後の課題

- 英語での指示が難しくても、ジェスチャーや単語などから指導者が伝えたいことを児童は想像することができていたため、児童に指示する表現、日常生活に密着した表現など、クラスルームイングリッシュの幅をさらに広げていく必要がある。
- 1時間の中に活動をたくさん入れてしまったり、単元で扱う言語材料が多くなってしまったりするため、計画時に精選する必要がある。そして、児童の活動の時間を十分にとるために、効率よくルールや流れを伝える必要がある。
- 楽しく活動することは大切だが、楽しさの質を見極め、児童の知的好奇心を揺さぶるような活動を各学年の児童の実態に応じて取り入れていく必要がある。また、英語表現の正しい発音を意識することや文字を4線上に正しく書くことについても、指導者が意識して引き続き取り組んでいく必要がある。